

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	療育医療総合センター I 期	階数	地上5F
建設地	愛知県春日井市神屋町713-8ほか11	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	120 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	平成28年2月 予定	評価の実施日	2014年3月20日
敷地面積	12,037.00 m ²	作成者	酒井、王、朝日、日野
建築面積	3,317.50 m ²	確認日	2014年3月20日
延床面積	8,403.75 m ²	確認者	日建設計 高山真



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 89%

③上記+②以外の 89%

④上記+ 89%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">37.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積}(\text{建築面積及び附属物面積})} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積}(\text{法定面積})} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								3.8	
Q1 室内環境								3.6	
1 音環境								3.0	
1.1 騒音									
1 室内騒音レベル									
2 設備騒音対策									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境								3.3	
2.1 室温制御									
1 室温				病室 夏期26℃、冬期23℃	3.0	0.38	4.0	0.57	
2 負荷変動・遠従制御性					-		-		
3 外皮性能				原則として、室毎で冷房・暖房切替可能	3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性					5.0	0.38	-		
5 温度・湿度制御					-	-	-		
6 個別制御					-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮					-	-	-		
8 監視システム					-	-	-		
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境								3.4	
3.1 昼光利用									
1 昼光率				トップライト、光庭	3.4	0.30	3.8	0.30	
2 方位別開口					3.0	0.60	3.0	0.60	
3 昼光利用設備					-	-	-		
3.2 グレア対策									
1 照明器具のグレア					4.0	0.40	5.0	0.40	
2 昼光制御				庇・カーテンによる昼光制御を行っている	4.0	1.00	4.0	1.00	
3 織り込み対策					-	-	-		
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境								4.5	
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆90%以上使用	5.0	0.50	5.0	0.63	
2 アスベスト対策					5.0	1.00	5.0	1.00	
3 タニコビ等					-	-	-		
4 レンジオネラ対策					-	-	-		
4.2 換気									
1 換気量				1床室100m ³ /h、4床室200m ³ /h程度	3.5	0.30	4.0	0.38	
2 自然換気性能					3.0	0.50	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				給排気位置は6m以上の離隔確保(病棟は方位も別)	3.0	-	3.0	0.33	
4 給気計画					4.0	0.50	5.0	0.33	
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視					5.0	0.20	-		
2 喫煙の制御				建物内全館禁煙	3.0	-	-		
5 煙の制御									
Q2 サービス性能								4.1	
1 機能性								4.9	
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性				4床室32m ² (8m ² ×4床)、1床室10m ²	5.0	0.40	4.8	1.00	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画				人にやさしい街づくり「望ましい整備方針」措置 例:廊下幅1.8m	5.0	1.00	-		
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観				病室天井高さ2.6m	5.0	0.30	4.5	0.40	
2 リフレッシュスペース					3.0	-	4.0	0.50	
3 内装計画				インテリアベース作成 床、腰壁をビニルシートとし、メンテナンス性に配慮	3.0	-	-		
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計				外部鉄部は亜鉛メッキ処理、主な内装床仕上げはビニルシート	5.0	0.30	-		
2 維持管理用機能の確保				清掃員控室 各階SK設置	5.0	0.50	-		
3 衛生管理業務					5.0	0.50	-		
2 耐用性・信頼性								3.7	
2.1 耐震・免震									
1 耐震性				構造体の重要度係数を1.25としている	3.7	0.31	-		
2 免震・制振性能					3.8	0.48	-		
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数					4.0	0.80	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.23	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				屋外露出ダクトなどには、SUSなどの高耐食性のダクトを採用	3.3	0.33	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				2種以上がB(給水はVLP、排水はDVLVまたはVPを使用)	3.0	0.23	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔					5.0	0.08	-		
					4.0	0.15	-		
					3.0	0.23	-		

2.4 信頼性				4.4	0.19			
1 空調・換気設備			電気ガス複合熱源、系統の細分化など	5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備		②	非常用発電機・UPS・重要負荷二重化を採用し、設備損傷を配慮 耐震クラスS	5.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				5.0	0.20			
5 通信・情報設備			通信手段多様化・精密機器の浸水対策への配慮	4.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.3	0.29	3.3	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31	3.6	0.50	
1 階高のゆとり			共用部 階高4.5m 病棟部 階高3.8m	5.0	0.60	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④	現状地盤なりに建物を配置。宅地に建てることにより伐採を極力 回避	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30			4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④	病棟廊下には光庭を設け、自然光があふれる空間としている	5.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			建築(一部機械)	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制				2.6	0.30			2.6
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用			トップライト、光庭	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			高効率照明器具、空調機器の採用	3.8	0.30			3.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			ERR=13.8%	3.8				
集合住宅の評価				4.9				
4 効率的運用				3.5	0.20			3.5
4.1 モニタリング			計量の細分化、BEMSの導入(将来対応)	4.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水型器具の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				4.0	0.63			4.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			基礎に高炉セメントを使用	5.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	砂利に再生クラッシュラン、タイルカーペットをエコマーク取得製品	4.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体と仕上げが容易に分別可能としている	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0かつGWP=1	5.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	自動計算	3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		駐車場を十分に確保。建物外周に敷地内道路を設け、交通の流 れをスムーズにする	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭	●			3.0	0.33			
3.2 風害、日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの過半を満たしている	5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状敷地全体が山なりの緑豊かな立地となっており、自然の緑に溶け込むよう水平を強調とした建物形状としている。また、既存レベルを生かした建物配置計画としている。 ・正方形の病棟プランによりナースステーションからの見守りのしやすさに配慮。 ・重心障害者施設ということもあり、人にやさしい街づくり「望ましい整備方針」を十分に満たす。
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟には光庭を設け、廊下に自然光をもたらし、明るく気持ちの良い空間としている。 ・各病室には深い庇を設け、日射を遮る計画としている。 ・空調ゾーン(室)ごとに冷房暖房を切り替えられる空調システムとしている。
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人にやさしい街づくり「望ましい整備方針」を満たすよう計画。 ・病棟廊下は広くとり、病室前に車椅子を配置できるよう配慮している。 ・病室は階高3.8m天井高さ2.6mとし、ゆったりとした空間としている。 ・床仕上げ・腰壁はビニルシートとし、清掃のしやすさを重視している。
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状敷地のレベルを尊重して建物を配置し、既存宅地のエリアを建設場所とすることにより、樹木の伐採は最小限としている。
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気設備では明るさセンサ、人感センサによる照明制御を行い、省エネに配慮している。 ・熱源設備の機器は、高効率モジュールチラーなど高効率機器を採用。 ・災害時にも、必要機能を維持できるエネルギー供給を計画。
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎躯体にリサイクル材として高炉セメントを使用し、砂利には再生クラッシュランを採用。 ・内装床仕上げにはエコマーク取得ののタイルカーペットを採用
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水調整池を設け、下流域への洪水抑制を行う。
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行幸啓樹木の保存 ・造成時に発生する掘削土量は場内保管し、2期計画時に盛土として再利用する。